

# 「学校周辺の教材を利用した授業」

岐阜県立中津高等学校 板津 裕也

## 1 地域調査に当たって

本校の周辺には地歴・公民化の授業に利用できる教材が数多く存在している。しかし、学校を離れて実際の現場へ生徒を引率する授業を実施するには、50分の時間では不可能な場合が多く、2時間連続の授業が理想的となる。本校の教育課程では地歴・公民科の2時間連続の授業が存在しないため、本校については架空の授業案「地理B」（1回分、合計2時間）を、授業実践については、前任校（岩村高等学校）の「地域研究」（1回分、合計2時間）を紹介したい。

## 2 岩村高等学校（前任校）での実践

岩村高等学校のある恵那市岩村町は、岩村城で有名な城下町で、平成10年4月17日に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。また佐藤一斎、下田歌子らの偉人を輩出した町でもある。学校の周辺には地歴・公民科の授業に利用できる教材が数多く存在しており、それらを利用した授業が展開しやすい。平成8年度より岩村高等学校で県下最初の「その他の科目」（「地域研究」）が実施されることになり、私がおその授業を担当した。授業は、3年生就職クラスの生徒対象の選択科目（体育、家庭、数学との選択）で、25人の生徒が選択した。授業は2時間連続で、5・6時間目に固定された。その中で学校周辺の教材を利用した授業を1回分（2時間連続）紹介したい。

### < 学校周辺の教材例 >

- (1) 木村家・・・江戸時代に御用達職を任せられた問屋。
- (2) 浅見家・・・幕末に御用達職を任せられた庄屋。
- (3) 勝川家・・・幕末に藩の財政難を支えた商家。
- (4) 柴田家・・・明治時代の建物で、旧態をよく残している。
- (5) 土佐屋・・・江戸時代に染物屋を営んだ旧家。
- (6) 枅形跡地、高札場・・・1989年に復元された高札場が立つ。
- (7) 岩村神社、終焉の地・・・承久の乱で敗北した一条宰相信能の斬罪を哀れんだ人々が、終焉の地に若宮社を建て祀る。
- (8) 鉄砲鍛冶・・・武家屋敷街にある加納家で、藩政時代に火縄銃を造った家柄。
- (9) 武並神社・・・大己貴命、遠山景朝を祀る神社、岩村町が一望できる場所。
- (10) ナマコ壁・・・蔵の壁の保存のため、その表面に平らな平瓦を斜めに並べ、継目を漆喰で固めたもの。
  - (11) ふれあいの館・・・旧十六銀行の建物で、岩村町の観光案内所として公開。
  - (12) 水野薬局・・・板垣退助が宿泊した古くからの薬局。
  - (13) 岩村藩校知新館正門・・・1702年、松平乗紀により創設。
  - (14) 岩村町歴史資料館・・・佐藤一斎自讃画像軸、岩村城絵図・同平面図を展示、民俗資料館を併設。
  - (15) 下田歌子勉学所、顕彰碑・・・実践女子学園を創設、近代女子教育の先駆者として活躍した歌子の勉学所。
  - (16) 顕彰碑・・・小泉純一郎首相の披露した佐藤一斎の教育観「三学戒」を刻む。
  - (17) 岩村城跡・・・高取城、松山城と並ぶ日本三大山城の一つ、1185年に加藤景廉が構築する。藤坂、土岐坂、豊橋、大手門、六段壁を登ると721mの山頂本丸跡地に到着する。

## ＜学習指導案＞

日 時	平成8年7月1日(月) 5・6限目	指 導 者	板 津 裕 也
指導クラス	3 年 CDE 組 選択 ( 男子10名、女子15名 )		
教科(科目)	その他の科目(地域研究)	単 元 名	岩村町を知ろう
教 科 書	な し ( 独自のプリントを配布し、ファイルさせる形式をとる )		
本時の主題	岩村町の歴史、岩村町が輩出した偉人たち		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知新祭の名称由来について理解させる。</li> <li>・知新館正門、岩村町歴史資料館の見学より、岩村町の歴史に関心を持たせ、城下町としての誇りを持たせる。</li> <li>・岩村町出身の下田歌子、佐藤一斎について理解させる。</li> </ul>		
過 程	学 習 項 目	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点呼</li> <li>・プリント配布</li> <li>・交通安全注意</li> <li>・知新祭の意味</li> </ul>	◇発問(岩村高校の文化祭はどうして知新祭なのか。)	・解答をプリントにメモさせる。
展 開	<p>①岩村高等学校</p> <p style="text-align: center;">【 移 動 】</p> <p>②岩村藩校知新館正門</p> <p style="text-align: center;">【 移 動 】</p> <p>③岩村町歴史資料館</p> <p style="text-align: center;">【 移 動 】</p> <p>④下田歌子勉学所</p> <p style="text-align: center;">【 移 動 】</p> <p>⑤顕彰碑</p> <p style="text-align: center;">【 移 動 】</p> <p>⑥岩村高等学校</p>	<p>◇地図で現在位置を確認させ、本日訪問する場所を○印で付けさせる。</p> <p>◇発問(この門は何か。)</p> <p>◇発問(太鼓の役割は何か。)</p> <p>▲知新館の説明をする。</p> <p>◆資料館の館長さんの講話(15分)を聴く。</p> <p>◆資料館を見学する。</p> <p>*佐藤一斎自讃画像軸</p> <p>*岩村城絵図・同平面図</p> <p>◇発問(誰が勉強したか。)</p> <p>◇発問(歌の意味は何か。)</p> <p>▲下田歌子の紹介をする。</p> <p>◇発問(碑に刻まれた文字は誰のものか。)</p> <p>◇発問(文字の意味は何か。)</p> <p>▲佐藤一斎の紹介をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントに○をつけさせる。</li> <li>・メモをさせる。</li> <li>・メモをさせる。</li> <li>・説明を聞かせる。</li> <li>・講話を聴いて要点をメモさせる。</li> <li>・特に2つの作品についてのメモをさせる。</li> <li>・メモをさせる。</li> <li>・メモをさせる。</li> <li>・説明を聞かせる。</li> <li>・メモをさせる。</li> <li>・メモをさせる。</li> <li>・説明を聞かせる。</li> </ul>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点呼</li> <li>・巡検のまとめ</li> </ul>	◇地域巡検の感想を書かせてファイルさせる。	・きちんと感想文を書かせる。



### 3 中津高等学校（現勤務校）での架空授業

中津高等学校のある中津川市は、奈良・平安の昔から東山道の要衝の位置にあり、江戸時代には中山道69次の江戸から数えて45番目の宿場町として賑わった。当時の町並みの長さは10町7間（約1100m）、道幅3～4間（5、4～7、2m）で、東から茶屋坂、淀川町、新町、本町、下町と続き、町の中核である本町には、本陣、脇本陣と2軒の間屋、庄屋、大小29軒の旅籠屋があったとされている。また安藤広重の浮世絵「木曾海道六拾九次之内」では、中津川宿だけが2枚描かれており、その1枚である「雨の中津川」は世界6枚しか存在しない版画として有名である。

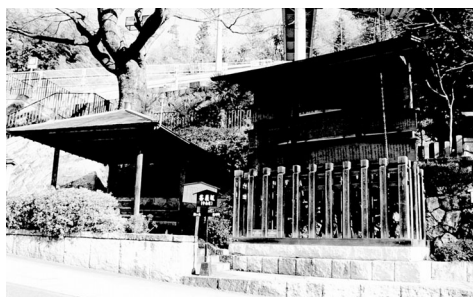
また前田青邨、中川ともらの偉人を輩出した町でもある。学校の周辺には教材が数多く存在し、それらを利用した授業が展開しやすい。架空授業は、地理Bで実施する場合を想定してみた。

#### < 学校周辺の教材例 >

- (1) 体育館から見る風景・・・恵那山（地形：新期造山帯）、市民病院の見える丘（地形：洪積台地）、王子製紙（工業：パルプ・製紙業）、中津川工業団地（工業：工業立地）など。
- (2) 中山道・・・江戸時代の主要街道である五街道の一つ。
- (3) 高札場・・・法度や掟書などを板に書き、人目につきやすい場所に高くかけられた。1711年公布の高札を復元した。
- (4) すや・・・栗きんとんの本家。（中津川は和菓子で有名）
- (5) 前田青邨生誕の地碑・・・日本画の巨匠として、歴史画を中心に花鳥画、風景画など数多くの作品を残す。また法隆寺金堂壁画再現事業、高松塚古墳壁画模写等にも手がける。

- (6) 桂小五郎隠れ家跡・・・1862年6月に桂小五郎（木戸孝允）を中心に倒幕の会談（「中津川会議」）が開催された場所。
- (7) 間家大正の蔵・・・東濃随一の豪商といわれた間家の敷地内にあった倉庫の一つで、1917年に建てらる。中津川商人の資料や宿場関係資料が展示される。
- (8) 中津川宿往来庭・・・当時の趣を現代風にアレンジした憩いの場。
- (9) 秋葉神社・・・中津川宿の中心地にある火伏せの神様。
- (10) 中津川市中山道歴史資料館・・・平成16年4月に開館する。薩長同盟に関する資料、和宮の降嫁に随行した、大奥花園から間家に贈られた品などを展示。
- (11) 庄屋屋敷曾我邸・・・江戸時代の庄屋屋敷。ほぼ当時の屋敷、庭が残る。明治26年には（旧肥田家）日本近代登山の父ウェストンが宿泊、ここから恵那山登山に出発。
- (12) 本陣跡・・・身分の高い人々（大名・勅使・公家）が休泊する場所。非常の折には、裏口から西側の大泉寺へ非難できるようになっていた。
- (13) 枡形・・・敵の攻撃に対する防御や対処方法として人為的に造られる。宿駅の中心部が直線的に見通すことができないように造られる。
- (14) 卯建のある家々・・・隣家からの類焼を避けるために設けられた防火壁。「うだつがあがらない」はここから来た言葉。

< 巡検地写真（中津川市） >



< 高札場 >



< 本町を眺める >



< 本陣跡 >



< 中津川市中山道歴史資料館 >



< 庄屋屋敷曾我邸 >



< 枡形と町並み >



## ＜学習指導案＞

日 時	平成16年2月1日(月) 5・6限目		指 導 者	板 津 裕 也
指導クラス	2年A組(男子31名、女子9名)、2時間連続の授業、引率教員を1名依頼して、1クラスを2班に分けて地域調査に出かける。			
教科(科目)	地理・歴史科(地理B)	単 元 名	市町村規模の地域調査	
教 科 書	新詳地理B(最新版)[帝国書院]	副 教 材	地理資料B(とうほう)	
本時の主題	身近な地域の調査 (テーマ:中山道)			
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査を通して、身近な地域に関心を持たせる。</li> <li>・地域調査の方法(観察方法、聞き取り調査等)を理解させる。</li> <li>・地域調査を通して、その地域の特徴を理解させる。</li> </ul>			
過 程	学 習 項 目	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点呼</li> <li>・プリント配布</li> <li>・交通安全注意</li> <li>・市内の景観観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇体育館の屋上より市内を観察して、気づくことを書かせる。</li> <li>中山道のルートを地図上に記させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山道のルートを地図上に示させる。</li> <li>・自然、産業の復習をさせる。</li> </ul>	
展 開	<p>①中津高等学校</p> <p>【 移 動 】</p> <p>②高札場</p> <p>【 移 動 】</p> <p>③本陣跡、庄屋屋敷 曾我邸</p> <p>【 移 動 】</p> <p>④枳形、卯建のある家々</p> <p>【 移 動 】</p> <p>⑤中津川市中山道 歴史資料館</p> <p>【 移 動 】</p> <p>⑥中津高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇地図で現在位置を確認させ、本日訪問する場所を○印で付けさせる。</li> <li>◇発問(これは何か。)</li> <li>▲高札場の説明をする。</li> <li>▲中山道の説明をする。</li> <li>◇発問(ここは何町か。)</li> <li>◇発問(これは何か。)</li> <li>▲本陣跡、庄屋屋敷曾我邸の説明をする。</li> <li>◇発問(なぜ通りが曲がっているか。家を見て気づくことは何か。)</li> <li>▲枳形、卯建のある家々の説明をする。</li> <li>◇聞き取り調査の実施4人1グループで聞き取り調査を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問する場所を地図上で確認させる。</li> <li>・メモさせる。</li> <li>・説明を聞かせる。</li> <li>・説明を聞かせる。</li> <li>・メモさせる。</li> <li>・メモさせる。</li> <li>・説明を聞かせる。</li> <li>・メモさせる。</li> <li>・説明を聞かせる。</li> <li>・きちんと聞き取り調査をさせる。調査した要点をメモさせる。</li> </ul>	
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点呼</li> <li>・巡検のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域調査を通して分かったことを整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントに整理する。</li> </ul>	



#### 4 成果と課題

地域調査を導入した授業実践として「地域研究」と「地理B」（架空の授業）を紹介したが、前任校での授業実践「地域研究」については、生徒がある程度意欲的に取り組むなど一定の成果がみうけられたが、引率教員の不足の問題、マナーの問題（聴く態度、交通ルールなど）などいくつかの課題もみられた。

「地理B」の単元「市町村規模の地域調査」における新教育課程の学習指導要領の内容は「直接的に調査できる地域の特色を多面的・多角的に調査して、日常の生活圏、行動圏の地域性を地誌的にとらえさせるとともに、日本又は世界の中から同規模の地域を取り上げて地誌的に考察し、それらを比較し関連付けることを通して、市町村規模の地域を地誌的にとらえる視点や方法を身に付けさせる」と明記されている。そのために、教科書や地図帳、統計集だけでなく、野外を歩いて自分の目で確かめたり、聞き取り調査を通して新しい発見が得られる地域調査の重要性が再認識されるべきである。また地域調査を通して培われる技能は、大学時代や大学卒業後の人生における生活の多くの場面で役立ち、自分で直接調査する姿勢を高校時代の「地理B」の授業で身に付けさせることにより、自ら課題を設定し、それを自分の力で解決する生涯学習スタイルの確立にも貢献できると考えられる。

しかし、引率教員の問題（20人で実施するため）、教育課程の問題（2時間連続の授業が不可能）、交通安全の問題など解決しなければいけない問題がいくつかある。しかし、大学で地理学を専攻して、地域調査の面白さと重要性について十分に認識しているため、次年度は1年に1回で良いので、2時間連続の「地理B」の架空授業を実践授業にしていきたいと考えている。